



河内毛綿團七縞

一

丹子

55

^ 13
3251
1



栗杖亭鬼卯著
一峰齋馬圓畫

だん

まら

まは

團七高

全部
五冊

文化十一年
甲戌新鐫

京攝書林合梓

二月二日

十八年八月
十九日

蔵書印
四
五
六
七

河村木綿

團七島序

鬼卯

綴る

語

能世を推し

團七島序

一

河内毛綿團七嶋目次

壹之卷

貳之卷

和泉守殿妻と大鳥佐賀兵衛とたまふ話
 玉嶋兵太夫幼児と拾ふ乳守の傾城琴浦話
 兵太夫佐賀兵衛太守の命を依て子と取替る話
 大鳥佐賀右工門総角と受出次話
 礪之丞浮牡丹の香煙と質入話

大鳥佐賀兵衛謀計露頭之話
 佐賀右工門が妻貞と死する話
 玉嶋礪之丞勘當と受る話
 高安團七話
 團七佐賀右工門が仲間と喧嘩の話

参之卷

四之卷

五之卷

玉嶋兵太夫團七と助る話
 一寸徳兵衛が傳團七大坂を越く話
 團七徳兵衛と兄弟の物とらる話
 團七おららぬ娶魚賣とらる話
 礪之丞危難徳兵衛と逢ふ話

琴浦礪之丞とまためて大坂を越る話
 佐賀右工門香煙の詮議小大坂をきこる話
 三河や義平次女房と志を殺す話
 悪漢も再び釣舟を打擲せらる話
 義平次香煙と受戻り話

團七義平次と殺す話
 於沢が亡霊佐賀右工門が悪事と釣舟を告る話
 九郎兵衛一寸が女房と不義とついで話
 佐賀右工門九郎兵衛を返り討ち討ち連ふ話
 狭客も出世乃話終



鉤船女房

大鳥佐賀右衛門



玉島礪之丞
傾城琴浦



お仲後
高き君

園七女房提

おのり

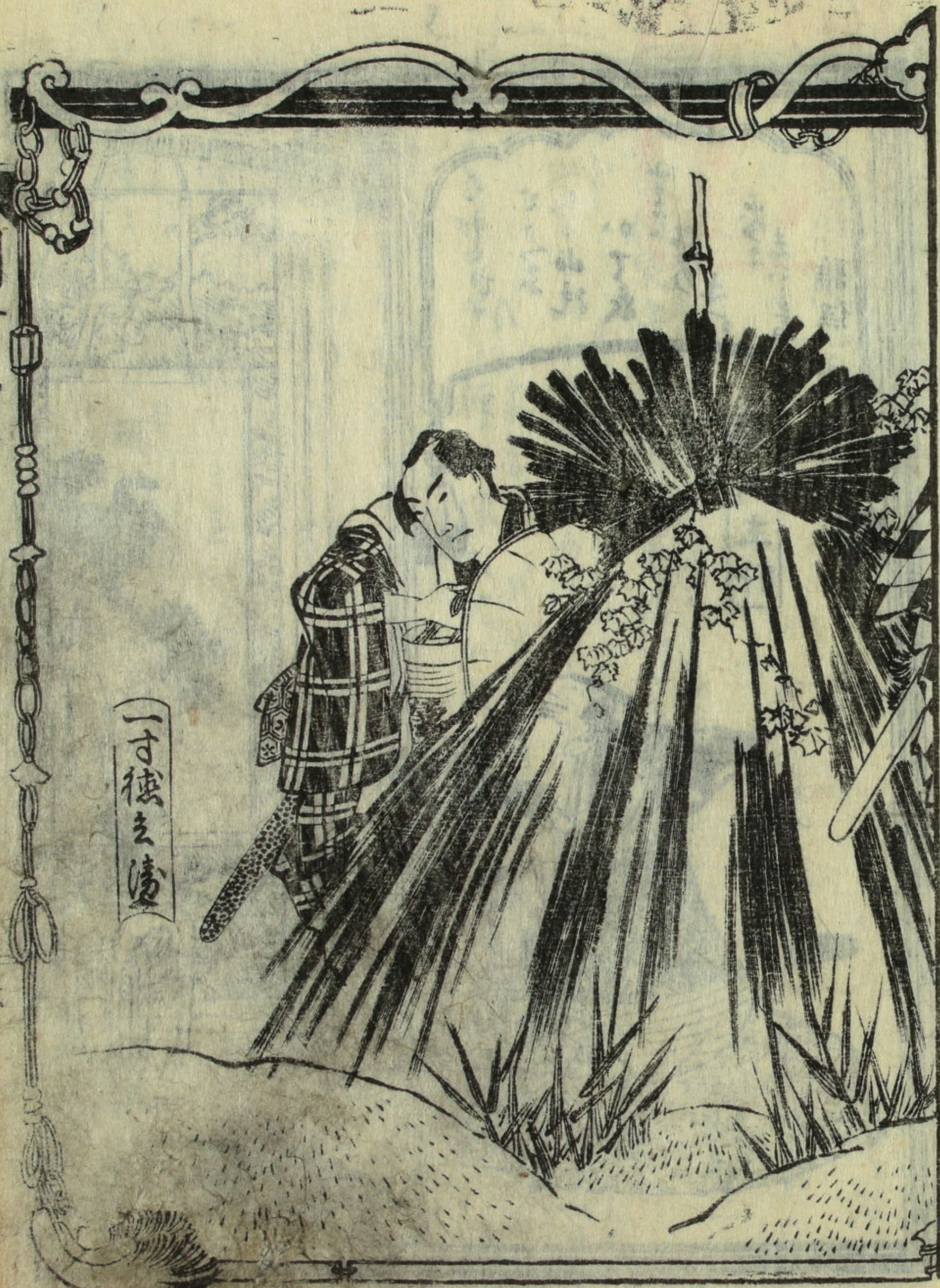


おのり

おのり

園七女房

一寸徳之邊



圖七

三河在儀平次



神藏書記

河内老綿團七島卷之一

栗杖亭 鬼卯著

○和泉守及妻叔大島佐賀を漸にたす話

竹の須^{たけのす}やあけけん、泉^{いづみ}の堀^{ほり}の太^お守^{もり}、妻^{つま}國^{くに}和^わ泉^{いづみ}守^{もり}といへり。諸^{あま}候^{こう}いまとかまらう、柝^{とく}け塚^{つか}の地^ちに往^ゆ肯^{けん}らう。諸^{あま}國^{くに}の通^と路^ろより、高^{たか}藤^{ふじ}土^{つち}より東^{あづま}海^{うみ}に交易^{かうぎ}自^{みづか}由^ゆの湊^{みなと}ありて、盤^{ばん}花^{はな}つとくもあ
らす。家^{いへ}他^た花^{はな}更^{さら}しく冬^{ふゆ}焼^{やき}の地^ちなまば。守^{もり}和^わ泉^{いづみ}守^{もり}との
金^{かね}根^ね不^ふ自^じ由^{ゆう}あらざるは、奈^なに極^{ごく}か、海^{うみ}泊^{とまり}な事^{こと}はしるは、
其^{その}虚^{よそ}をきいて、媚^{めい}里^り漏^{ろう}り入^いり多^{おほ}くうりて中^{ちゆう}ふし却^{かへ}側^{がは}
向^{むか}用^{もち}ね勤^{ごん}る大^{おほ}島^{しま}佐^さ賀^がを漸^{しぜん}といへり者^{もの}。夫^{おの}守^{もり}の心^{こころ}小^こ叶^{あは}い



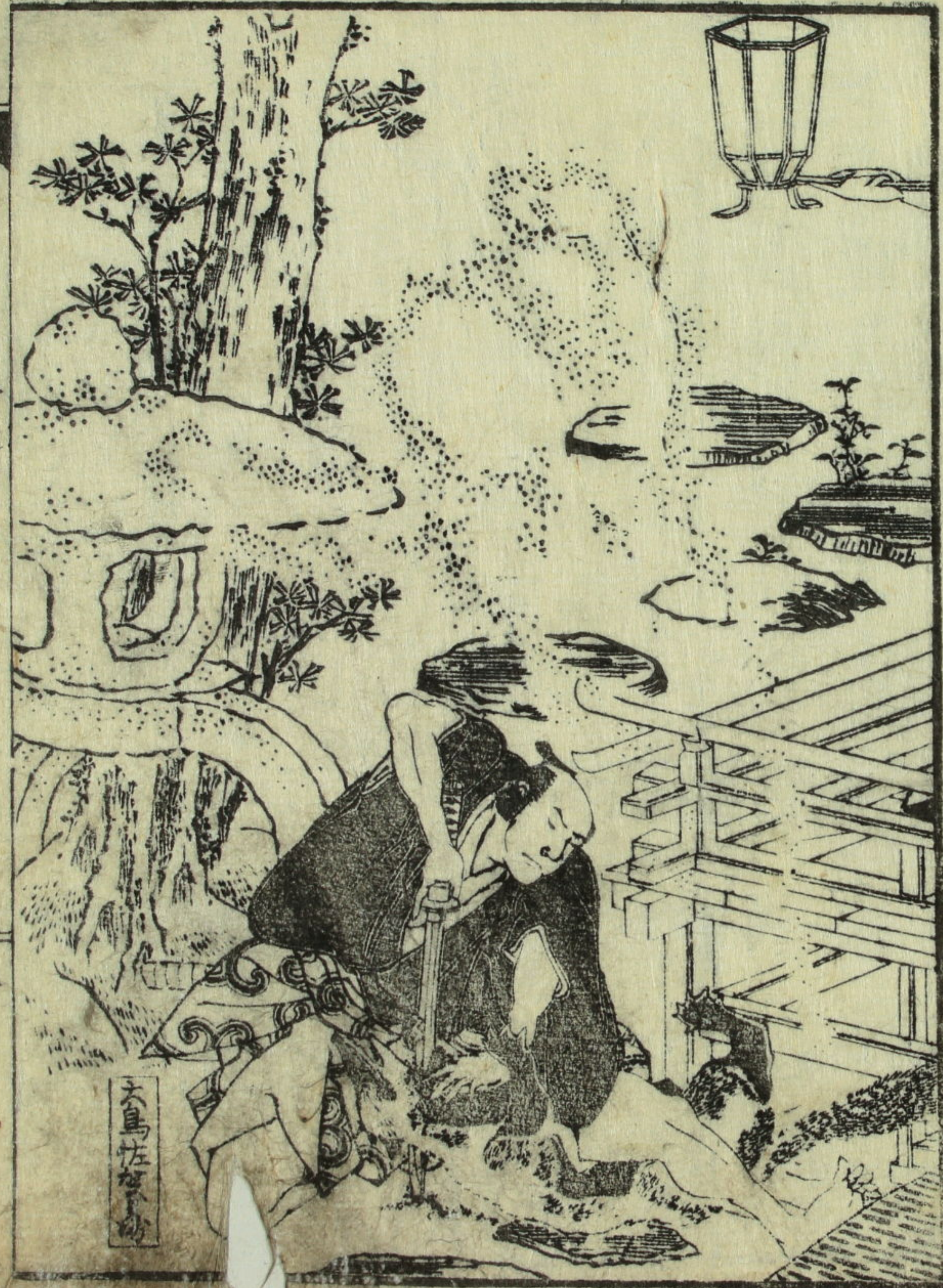
團七島

諸事己が位よ。政事とし行ひけは、公の忠臣の業ハ
 肩代いをめぐり。け家中に玉鳴をたまとして、
 の士あり。常小殿の行跡、以患い。折箭待て、
 とも。倭臣の方多けをべ、まをまが誅伐馬耳風の如
 用いたまはす。忠臣の家老助に主計などし、
 遠ざけらま。寂莫くらし。大島佐賀を周はけ、
 ありと。たましく。討伐して。殿と感い。ゆると。殿い又死
 忠臣とわばし。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 殿の御種を身こりり。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、

と。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 出で。月日を送り。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 妻もなく。おはといへる。妻一人あり。是も佐賀を周はけ、
 成り。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 妻あり。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 あり。大ち何なく。其方、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 いらんと。おはし。山伏のあし。と。おはし。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 の女中を。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 殿、枕刀引。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、
 そりさず。吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、吾れ、

かに引どり形取振差抜しら。山伏の詔ぬぐと突
 けつてさやつと叫びてうりそなひ迎り成二の刀を
 又切付まばさしとらざ死しなり。殿もは場擧へ
 倉へあつたまへば。まふ大鳥岐怪成仕留なり。場と振て
 又たまへば。年経る程の二ヶ所を疾と交けて死し
 ける。ち守大智成あふとまひ。讚美たまひ。出来たり
 佐賀を御守が家よ。ゆる政怪ありと世とへつて
 家の疾となるふよ。海が御と天晴まうと所をさそり
 柳とげんの余りに。海お糸よかあるゆ。まゝと
 ぬぐる。只今の後身よ。お糸と海へまはす。いゝいゝ

源三位頼政は。他多成射て禁裡より。高橋の前と玉
 くりし。例よまらせよ。成引ゆるべし。と富よ。佐賀ま
 思入とづら。高生一止と仕留し。恩賞として。お糸の方と
 下とる事。生前の面目けよ。さし。まうし。かり。入子。ぬめ
 り。つ。留け。事。隠。候。小。さ。し。下。と。ら。い。進。る。様。と。た。の。こ。
 表。向。し。孫。成。仕。た。し。と。并。小。ま。う。せ。て。迷。々。と。大。守
 大。又。盛。ト。玉。ひ。嫁。ま。く。し。と。要。の。奸。淫。ま。う。む。の。事。ま。れ
 といつふても。海が。出。す。時。よ。を。す。べし。と。其。叔。ハ。麻
 布。入。ら。せ。ま。い。る。お。佐。賀。ま。御。ハ。家。よ。り。つ。り。日。の
 急。の。叶。ひ。し。と。悦。び。る。が。妾。お。は。と。め。仰。せ。んと。さ。ま。く



大鳥佐助



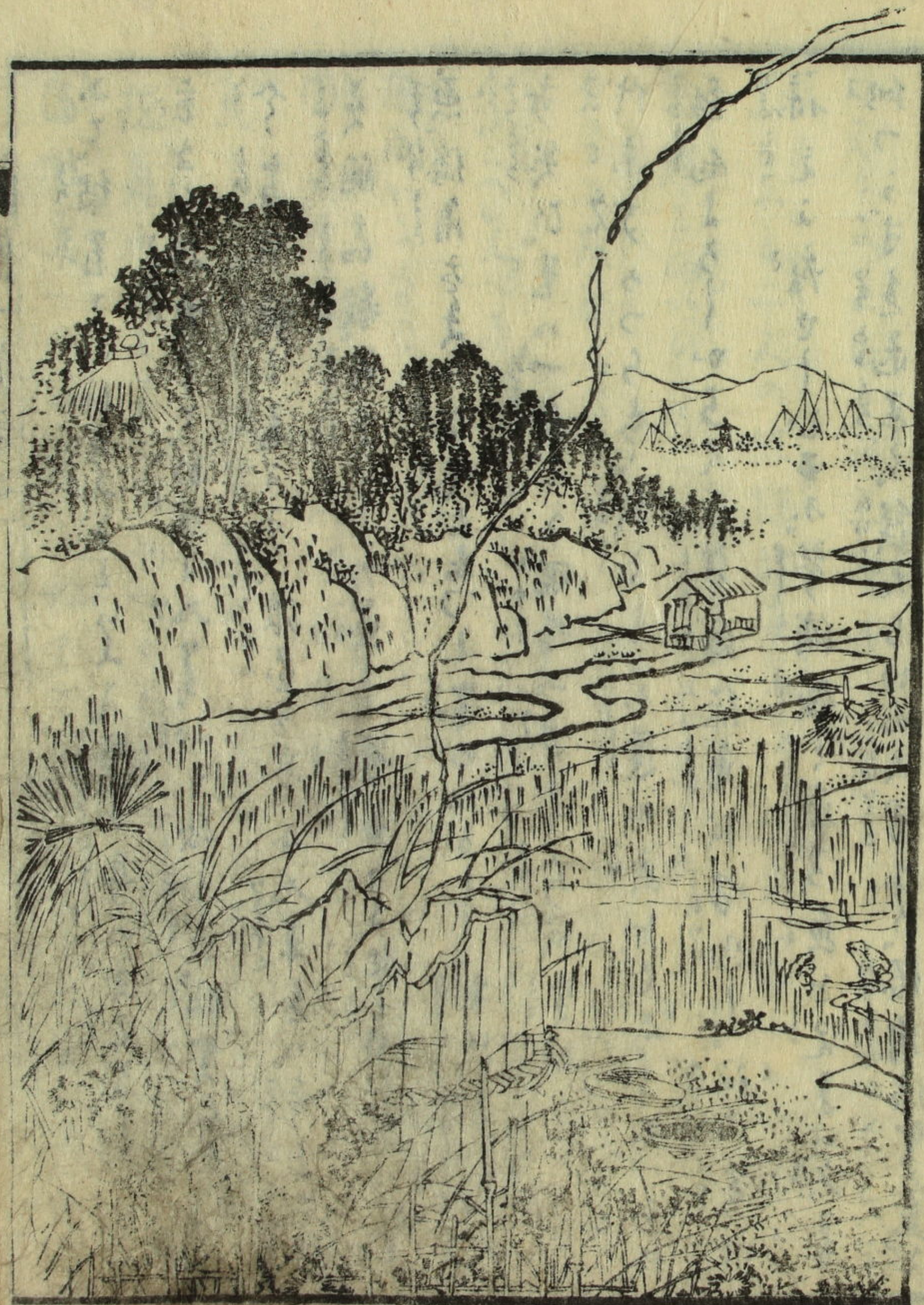
長谷白浪寺

おるの方

大鳥
 佐助
 前
 右
 左
 右
 左
 右
 左

おくけ年まで。近迎なまきども終おえたる事もあらす今
 宵兩人りて。一盃と傾けんいづふとゞふ。佐賀右衛門も
 是ハ一盃の幸なり。是下の初音の揚屋もあらば、後引く
 とゞふ。まきくべ家僕にけりい。晩方行べき音のい
 きらんと約してか。中間早助といへる者おまきりくの
 よーといひ付もば畏まりいとして。乳子お名なぐる。雛波屋
 へ。婿家へおくといい入る。け雛波屋。琴浦。徳角とて。
 二人の全盛の妓婦あつた。とて琴浦ハ念量と分れて。
 市藏女帝とてとや。今。藩中の若竹。琴浦。徳
 角と。揚屋。べーとて送るべき。亭主も新判的害されハ。

かり。おさらす。か。おれ。其。男。妻。と。よ。し。各。人。の。妓。婦。も。今。宵。の
 玉。崎。波。屋。と。名。大。右。佐。賀。右。衛。門。と。い。ふ。所。侍。の。ま。う。た。し。と。い。ふ
 道。筋。の。と。兼。登。お。さ。ら。と。う。れ。と。い。ひ。後。ハ。徳。角。琴。浦。の
 呼。と。さ。ら。ハ。後。と。名。と。い。ふ。は。ま。り。成。功。の。嵐。之。五。郎。と。い。ふ。
 つ。し。市。藏。さ。ら。ん。佐。賀。右。衛。門。と。い。は。後。尾。の。十。右。衛。門。と。い。ふ。敵。役
 の。人。さ。ら。ん。是。小。出。の。小。右。衛。門。左。近。事。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
 浦。町。つ。て。雙。味。の。お。お。ふ。し。市。藏。の。長。悪。と。い。ふ。初。と。い。ふ。と。い。ふ。
 唱。亭。よ。ま。う。せ。た。る。身。と。い。ふ。客。の。長。腕。と。い。ふ。の。お。お。ふ。と。い。ふ。
 今。宵。の。其。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。大。鳥。佐。賀。右。衛。門。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
 字。よ。し。玉。崎。波。屋。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。



おて被^まる^るといひわくまとりし上^うの婦^むか舟^{ふね}のま^まにるま^まに
 かまく投^な骨^{こつ}して船^{ふね}に入^いる。おも^おも^も破^やれ^る魚^{いし}。佐^さ賀^が右^{みぎ}門^{かど}の
 今^{いま}曾^そ氏^{うぢ}瞻^{けん}と看^みら^る。浪^{なみ}が^が亭^{てい}小^{せう}入^い来^きま^す。亭^{てい}と^と出^でて
 魚^{いし}酒^{さけ}の殺^{ころ}す。吾^{われ}そ^の一^{いつ}魚^{いし}画^え一^{いつ}餐^{はん}魚^{いし}。琴^{こと}浦^{うら}を^をま^まい^い破^やれ^る
 魚^{いし}。徳^{とく}角^{かく}を^をま^まい^い佐^さ賀^が右^{みぎ}門^{かど}と^と定^{さだ}め^るに^にる^る。物^{もの}破^やれ^るに^に人^{ひと}
 歩^あ笑^{わら}ひ。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる唱^な婦^ふの^のお^おも^もい^い。女^に氏^{うぢ}定^{さだ}む^むる^ると^と人^{ひと}
 代^{しろ}未^みす^すつ^つら^らと^と。我^{われ}も^も君^{きみ}達^{たち}の^の魚^{いし}と^とも^もさ^さら^らね^ねば^ばそ^の
 徳^{とく}向^{むか}よろ^しから^らん^ん。琴^{こと}浦^{うら}。徳^{とく}角^{かく}。女^に氏^{うぢ}。破^やれ^る。魚^{いし}と^とも^もさ^さら^らね^ねば^ば
 破^やれ^る。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる唱^な婦^ふの^のお^おも^もい^い。女^に氏^{うぢ}。破^やれ^る。魚^{いし}と^とも^もさ^さら^らね^ねば^ば
 似^につ^つら^らす^す志^し思^しく。琴^{こと}浦^{うら}。徳^{とく}角^{かく}。女^に氏^{うぢ}。破^やれ^る。魚^{いし}と^とも^もさ^さら^らね^ねば^ば
 徳^{とく}角^{かく}。佐^さ賀^が右^{みぎ}門^{かど}。破^やれ^る。魚^{いし}と^とも^もさ^さら^らね^ねば^ば

と^とる^るま^まを^を向^{むか}く^く用^{もち}え^え重^{おも}ら^らし^しく^く。いと^{いと}笑^{わら}し^しと^と男^{おとこ}ま^まは^は是^こ
 とい^いふ^ふと^と二^{ふた}人^{にん}の^の佐^さ賀^が右^{みぎ}門^{かど}に^に坐^まり^り。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。
 琴^{こと}浦^{うら}は^は向^{むか}い^いひ^ひなる^る。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる^る。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。
 ありて。徳^{とく}角^{かく}が^が右^{みぎ}門^{かど}に^に坐^まり^り。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる^る。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。
 今^{いま}又^{また}い^いふ^ふと^と付^つく^く。いと^{いと}不^ふ良^{りやう}なる^る。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる^る。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。
 酒^{さけ}用^{もち}い^いふ^ふ。お^おも^も破^やれ^る魚^{いし}。佐^さ賀^が右^{みぎ}門^{かど}の^のお^おも^もい^い。女^に氏^{うぢ}。破^やれ^る。魚^{いし}と^とも^もさ^さら^らね^ねば^ば
 肉^{にく}も^も入^いる^る。佐^さ賀^が右^{みぎ}門^{かど}に^に坐^まり^り。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる^る。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。
 魚^{いし}も^も破^やれ^る。佐^さ賀^が右^{みぎ}門^{かど}に^に坐^まり^り。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる^る。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。
 徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる^る。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。
 是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる^る。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。是^こハ一^{いつ}奥^{おく}なる^る。徳^{とく}角^{かく}ハ^ハ公^{こう}よ^よら^らし^しく^く。

團七真卷之一

とましく。海として云々々々も。琴浦の初。佐賀を
 が胃うう小舟を想して。破く魚ははらう。食意
 ける。破く魚ははらう。食意とどめ。命を方。相方と定
 今ま。さう付る。己。破く魚ははらう。食意と定
 恨。て。恨。まら。て。異。んと。其。お。の。不。與。ま。上。佐。賀。を。ま。つ
 と。引。連。ま。く。藩。中。へ。帰。る。

○玉崎兵衛大鳥佐賀を藩大守の命おくらて。破く魚ははらう。食意と定
 おも。お。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定
 徳。角。い。琴。浦。が。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定
 小。舟。う。た。ま。い。い。空。と。姻。く。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定

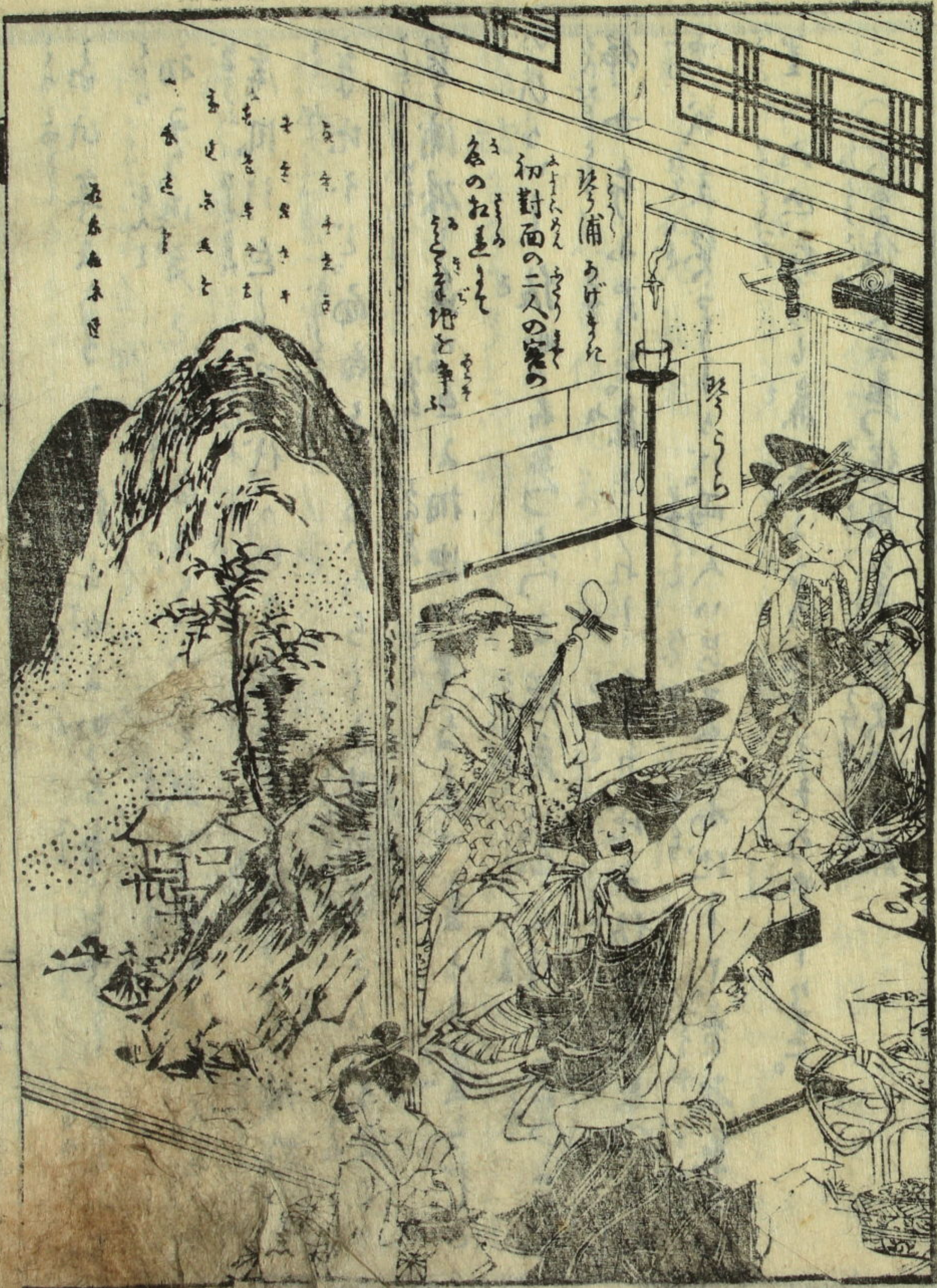
え。たり。由。身。と。の。い。ぬ。家。よ。女。希。の。親。方。よ。身。と。愛。し
 の。の。ま。ま。い。お。の。愛。醜。よ。い。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定
 の。た。ま。い。す。や。け。と。い。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定
 小。賀。ま。だ。ま。へ。と。妹。女。希。よ。異。又。と。世。ら。ま。琴。浦。の。一。云
 の。善。と。へ。さ。く。赤。や。う。小。面。と。さ。し。て。あ。り。な。る。ぶ。や。う。い。小
 いら。て。質。味。の。初。系。何。の。さ。た。る。由。へ。後。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定
 た。ま。い。も。を。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定
 へ。し。と。恨。ま。入。く。居。る。う。う。か。く。て。大。鳥。佐。賀。を。藩。大。守。の。命。お。くら。て。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定
 の。佐。賀。右。衛。門。と。信。と。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定
 を。ま。ま。が。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定。己。破。く。魚。は。は。ら。う。食。意。と。定

旅の有りたるごん一奉の旨も此情やうな佐賀を
 街の大なるよきおまども佐賀を去つとほつとありけるが
 殿と無と無にまゝなり。奉呈成就せんとすも此情やう
 直に親みの重とありわりの大守の佐賀を去ら
 る志とうとまにまの所種の佐賀を去つとまゝなり者
 名に付けたる名のおお無と名にまゝなり
 小下とまゝなりとも愛々も是より佐賀を去つと無
 と号。殿と無と佐賀を去つと改め兩人とも道智役は
 出とまゝなり。おも殿と無。佐賀を去つと名と無佐賀を
 旅へありたるが。同きお求む。旅のまゝなり。往のまゝなり

佐賀を去らばふよ叶ひ。まの無子よりものつとまゝなり
 夫の佐賀を去つと無とまゝなり。あま温酒よりこれ
 始の殿と無より百倍して不夜と加へ母もなま殿と無と
 うとまゝなり。けの殿と無の無い無いとまゝなり。けのま
 佐賀を去らば。まの無子供とまゝなり。行くとまゝなり。無
 く。乳守の青樓へも後を初より。あま温酒よりこれ
 ぬまはせん。日の佐賀も。直に松ともわのとまゝなり。無
 や今一なる青樓の酒と吾輩とんと。まゝなり。難波屋がま
 ま。初の方とまゝなり。あま温酒よりこれ。無の無
 子供とまゝなり。奉呈すぬまは。まの無子供とまゝなり。無

勢源が総角琴浦に引退をい初より約束のとき
 ぬ家がは言するところありたまへと連れね琴浦うら
 撥がす。そのこの水暮の名の竹とりふぞと。詩うよるまが
 夫の初と一幸。大馬佐賀右妻とるなりとよふ琴浦
 子笑ひ。そのまよまが。けは方の我は言する酒のわいして
 たまのるまとりよふ琴浦とまのらうするゆぞといよ一思
 けまがまよまがけは月。けは方の玉崎夜とよおまのりま
 幸のよふも初り信まが。玉崎夜とよおまのりま初よりおは
 まれのけは方をよお家へ連れね。佳竹とりよまあらん
 と引連れ初るまが。総角の此まよま。佐賀右妻門よ

くる幸のありたるお中と尋まま。佐賀右妻つ答て。うらも
 當二月御前よおめて。おと親く成るうへ只今うふての
 大馬佐賀右妻つとつよいおまのり。すて総角の奥まめ
 けるが。女帝のま引のまさん。佐賀右妻つふいひけるの
 いくまも。お安の因縁ならび。次琴浦どの初より。夜とよ
 をおして。君ふいほらく。答るるとの幸まま。今いふ
 おお牙。え難とま。作りての。女帝仲間へ。いと合されぬ
 こまのけよ。幾千代うけて。まらぬとつよ。おおま。えま
 たし。お牙の。お舩の。おの。おの。おの。佐賀右妻つ。振る
 振る。お指の。お切る。お一。おま。佐賀右妻つ。大よ。おま



石倉の末

長年十一年
子年十一年
壬子年十一年
壬子年十一年
壬子年十一年

珍う浦あげまね
初対面の二人の
名のおまじ

珍うらら

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二



大名佐

お晴

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

又後も血くならん。葉の美多人よをい。をりよい
 あり付らるるやうく。徳角とま出寸半あり。長く旅
 の悪よ付合居らるるな。廊も杖つり人。笑山千
 馬形りと。あくまで朝顔して。徳角の曲橋の余はな
 まはと。救多の金銀と荷ららして。徳角引連のつり
 ける。まらう。佐笑を清の河内。高安殿の家中に就
 於あり。多と粧も。是の娘とよ。徳角と表向し。
 娘よ子連名との巻と改たの。昏礼しけるよ。徳角の
 公よ叶いぬ。佐笑右束つなと。琴浦への類富なまは。
 男佐笑多清も。まらやの小仕へ。まは大切小なし。

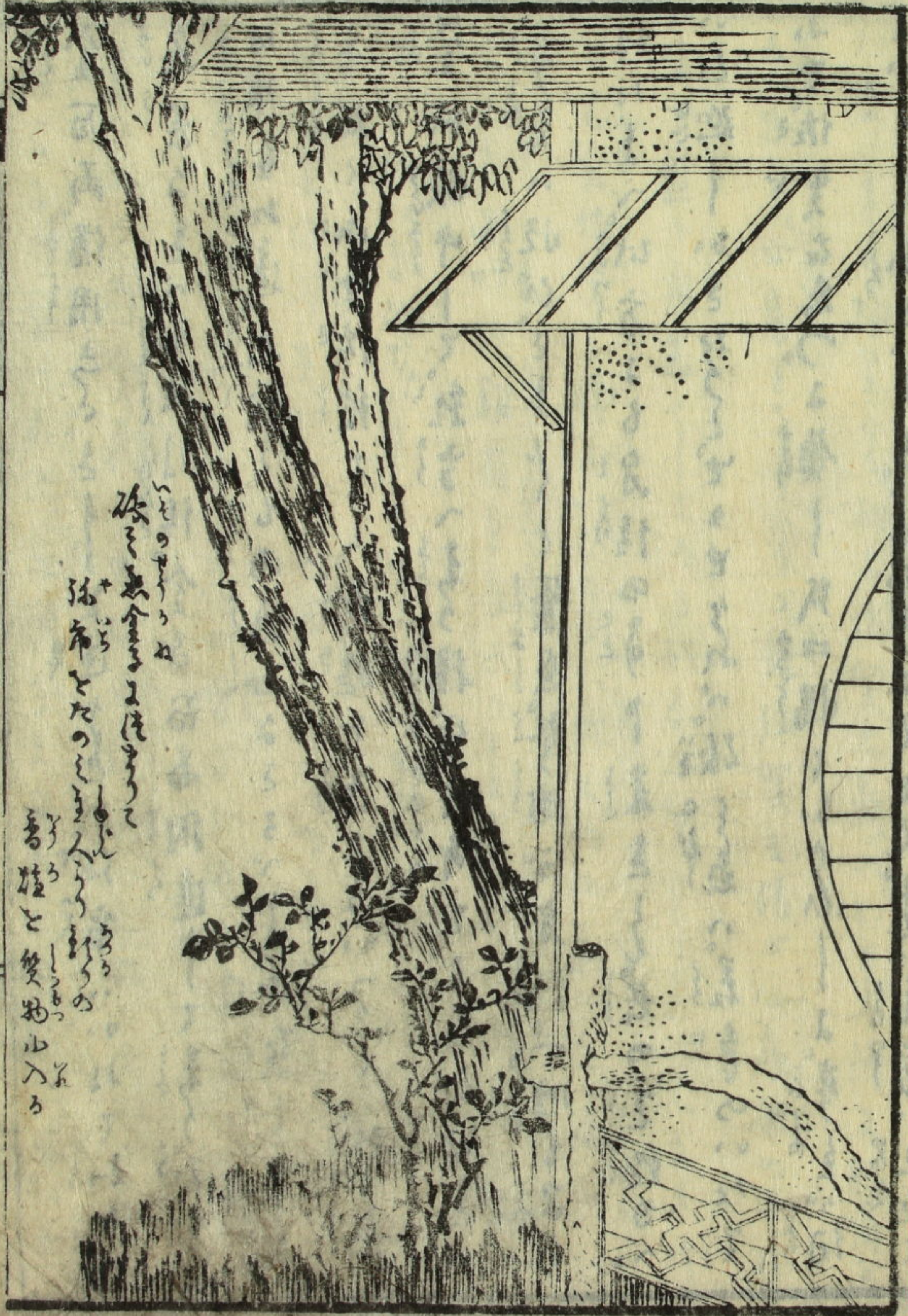
けまの。佐笑右束つり。破く悪一人と。最湯者に見ん。と
 廊通と止。いとましく形り。琴浦の佐笑右束つよ。あ
 くまで朝顔せらるる。口痛く。妹女希よ。身法と紙はし
 幸を念よ。ありぬ。破く悪へ。みとま。いと徳め。まはし
 りれぬ。破く悪大いよ。おどろき。佐笑右束つり。いで大金と
 掛らへん。虚伝ならん。又遠廊へ。まま。徳角の
 夕顔。曲橋と引ける。いと。忙を果て。あつら。ま。琴浦の
 佐笑右束つがいひ。幸と。破く悪。又。お伊王。翠く
 身法して。まは。妹女希。又。紙と。ま。ひる。身法
 するも。君のへ。なり。と。涙ながら。いひ。なる。ふへ。身法。ま。ま。出

ねが佐賀の事の時、揚代をわけて、見る事、
 ありとまかを、早くまへと作をまへへ、竹竿一列も
 置く。河波一下とまへし。凡百両斗の事、
 此の極く、返引まとも、迷然ふかたうと、
 後く、魚の、免、おふと、又、又、思案も、
 事ハ、一兩日中、
 するぞと、
 中く、
 揚代、
 ようけて、
 揚代、
 ようけて、

夕佳とも、
 夕佳とも、

○ 破く、
 破く、
 破く、

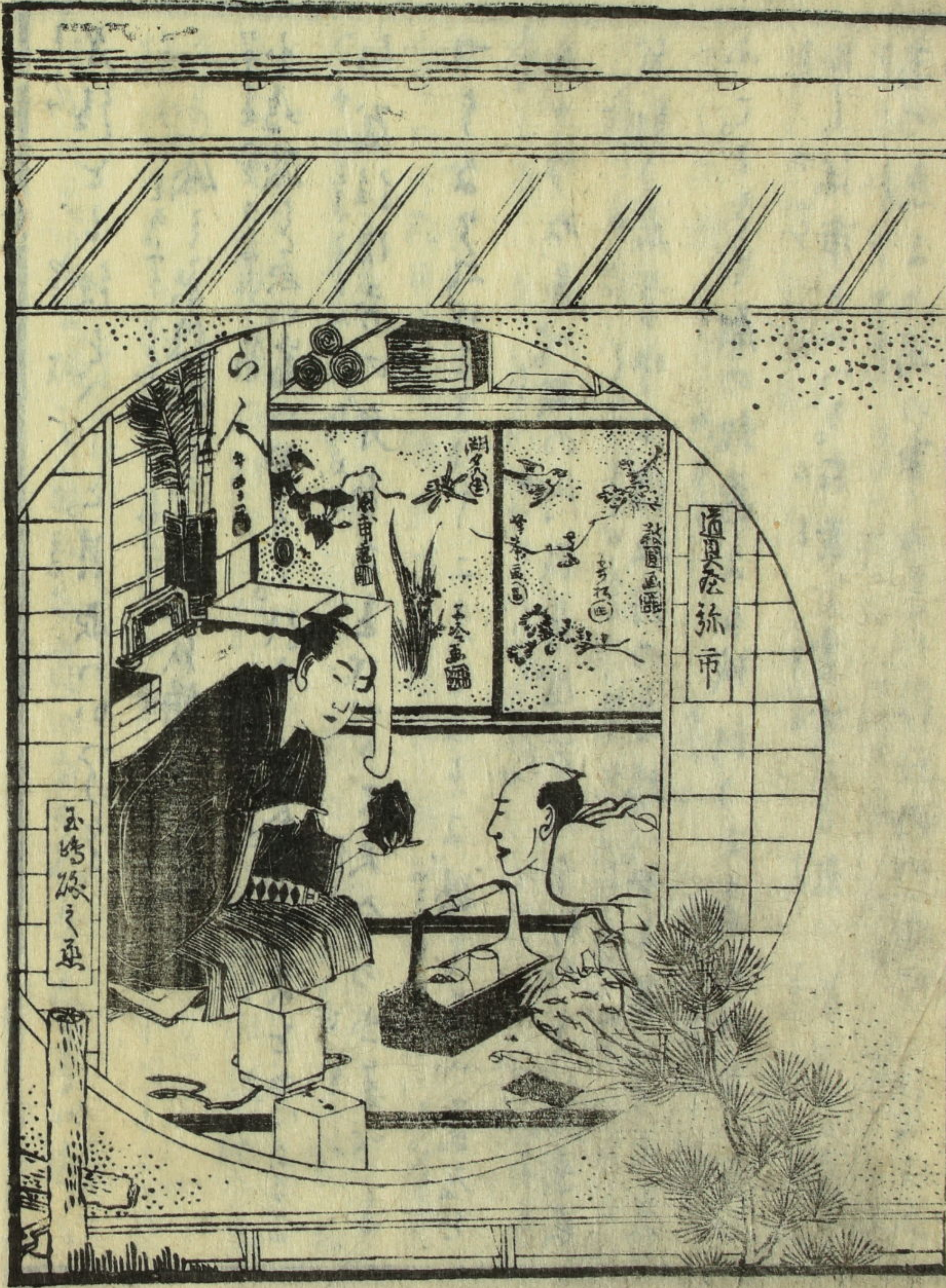
出崎、
 破屋、
 やうな、
 なが、
 出、
 高、



山崎宗鑑

ひとのせうりぬ
 ぬきまふまはさうて
 孫布たのくまこ
 香柱と雙物山入る

山崎宗鑑



團七篇卷之二

通具在孫市

玉崎源之丞

二十

